

## 市町の合併による表示の変更

### ■ 変更予定のない市町

神戸市・尼崎市・西宮市・芦屋市・伊丹市・宝塚市・川西市・三田市・猪名川町・明石市・加古川市  
 ・高砂市・稲美町・播磨町・小野市・加西市・市川町・福崎町・太子町・上郡町・相生市・赤穂市

注：上郡町・相生市・赤穂市については今後合併の可能性はある。

### ■ 変更があった市町

平成 11 年(1999 年) 3 月 31 日現在	平成 17 年(2005 年) 4 月 1 日現在	平成 17 年(2005 年) 12 月 31 日現在	平成 18 年 4 月 1 日現在	備 考
西脇市	西脇市	西脇市		平成 17 年(2005 年) 10 月 1 日
多可郡 黒田庄町	多可郡 黒田庄町			
三木市	三木市	三木市		平成 17 年(2005 年)10 月 24 日
美囊郡 吉川町	美囊郡 吉川町			
加東郡 社町 " 滝野町 " 東条町	加東郡 社町 " 滝野町 " 東条町	加東郡 社町 " 滝野町 " 東条町	加東市	平成 18 年(2006 年)3 月 20 日
多可郡 加美町 " 中町 " 八千代町	多可郡 加美町 " 中町 " 八千代町	多可郡多可町		平成 17 年(2005 年)11 月 1 日
姫路市 飾磨郡 家島町 " 夢前町 神崎郡 香寺町 宍粟郡 安富町	姫路市 飾磨郡 家島町 " 夢前町 神崎郡 香寺町 宍粟郡 安富町	姫路市 飾磨郡 家島町 " 夢前町 神崎郡 香寺町 宍粟郡 安富町	姫路市	平成 18 年(2006 年)3 月 27 日
神崎郡 神崎町 " 大河内町	神崎郡 神崎町 " 大河内町	神崎郡 神河町		平成 17 年(2005 年)11 月 7 日
龍野市 揖保郡 新宮町 " 揖保川町 " 御津町	龍野市 揖保郡 新宮町 " 揖保川町 " 御津町	たつの市		平成 17 年(2005 年) 10 月 1 日
宍粟郡 山崎町 " 一宮町 " 波賀町 " 千種町	宍粟市			平成 17 年(2005 年)4 月 1 日
佐用郡 佐用町 " 上月町 " 三日月町 " 南光町	佐用郡 佐用町 " 上月町 " 三日月町 " 南光町	佐用郡 佐用町		平成 17 年(2005 年)10 月 1 日

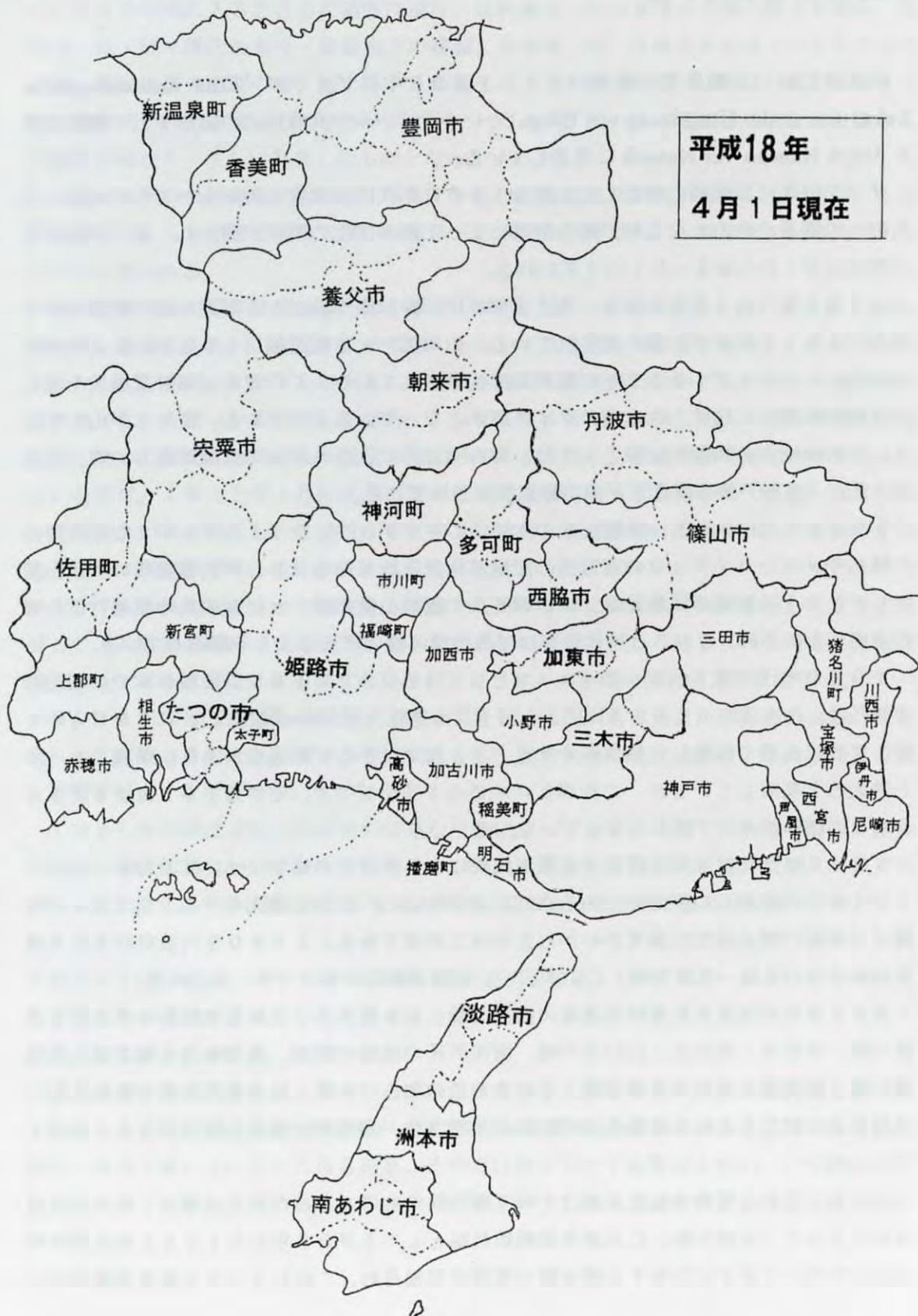
平成 11 年(1999) 3 月 31 日現在	平成 17 年(2005) 4 月 1 日現在	平成 17 年(2005) 12 月 31 日現在	平成 18 年 4 月 1 日現在	備 考
豊岡市 城崎郡 城崎町 " 竹野町 " 日高町 出石郡 出石町 " 但東町	豊岡市			平成 17 年(2005 年)4 月 1 日
養父郡 八鹿町 " 関宮町 " 大屋町 " 養父町	養父市			平成 16 年(2004 年)4 月 1 日
朝来郡 生野町 " 山東町 " 和田山町 " 朝来町	朝来市			平成 17 年(2005 年)4 月 1 日
城崎郡 香住町 美方郡 村岡町 " 美方町	美方郡香美町			平成 17 年(2005 年)4 月 1 日
美方郡 温泉町 " 浜坂町	美方郡 温泉町 " 浜坂町	美方郡新温泉町		平成 17 年(2005 年)10 月 1 日
多紀郡 篠山町 " 西紀町 " 丹南町 " 今田町	篠山市			平成 11 年(1999 年)4 月 1 日
氷上郡 柏原町 " 氷上町 " 青垣町 " 春日町 " 山南町 " 市島町	丹波市			平成 16 年(2004 年)11 月 1 日
洲本市 津名郡 五色町	洲本市 津名郡 五色町	洲本市 津名郡 五色町	洲本市	平成 18 年(2006 年)2 月 11 日
三原郡 緑町 " 三原町 " 南淡町 " 西淡町	南あわじ市			平成 17 年(2005 年)1 月 11 日
津名郡 津名町 " 淡路町 " 北淡町 " 一宮町 " 東浦町	淡路市			平成 17 年(2005 年)4 月 1 日

図1 平成11年(1999年) 3月31日





図3 平成18年(2006年)4月1日



## 兵庫県の蝶研究小史

兵庫県における蝶研究の歴史は古く、1892年にザイツが「Eine Entomologische Exkursion in die Umgebung von Hiogo」というタイトルで兵庫周辺の昆虫学上の調査結果を *Jahrb Nassau Ver Naturk* に発表している。

ザイツ以外に兵庫県に特定した文献は1800年代には筆者らの知るところでは無いが、外国との貿易の中心となる神戸港の開港によって欧米文化の門戸が開かれ、県下の蝶研究の歴史は早くから始まったものと思われる。

1900年代に入ると大上宇一氏、福田卓氏、井口宗平氏による播磨地域の蝶類の研究報告が1910年までに多く残されている。山本広一・吉阪道雄（1958）によればキマダラルリツバメが1902年に龍野市で採集されており、この標本は高野鷹蔵氏を通じて松村松年博士に届けられ本種のタイプ標本となっているようである。また六甲山を中心とした阪神地方の蝶類の記録としては、樽谷明吉氏による六甲山の南御影地方の蝶、佐竹正一氏による神戸産の蝶などが同時期に発表されている。

1920年代に入ると小林賢三氏の六甲山のギフチョウ、ウラミスジシジミなど六甲山の蝶相やメスシロキチョウの西宮市の記録が発表されているほか、戸沢信義氏の六甲山麓のヒメヒカゲ他数種の採集記録、山田瞬亮氏の鷹取山麓の蝶、北村達明氏の須磨付近の蝶相が明らかにされ、1930年代にかけて阪神間の蝶の研究はより一層進んでいる。

1930年代の県下のビッグニュースとしてはヒロオビミドリシジミの日本での初記録であろう。山本広一（1953）によれば「兵庫県佐用郡久崎の蝶（2）」に1934年6月17日に久崎で採集した個体がオオミドリとは少なからず相違点があり、新種であろうと考えると発表しているが、これがヒロオビミドリシジミで、その後1959年6月14日にこの個体がタイプ標本となっている。

1940年代には加地早苗氏や高橋寿郎氏による神戸市の蝶相についての報告のほか、1948年には地元の同好会である虫同友会が発足し、法西定雄氏を中心とした方々の活躍で兵庫県の蝶の研究に拍車がかかったのはこの頃である。1940年代後半からは兵庫県生物学会の会誌「兵庫生物」に山本広一、吉阪道雄氏の報告が多く見られる。

1950年代に入ると西村公夫氏の西播の蝶、山本義丸氏・甚田竜太郎氏の氷上郡と丹波の蝶、中尾淳三氏の氷ノ山付近の蝶、堀田久氏の淡路の蝶相、高見裕氏・梅本功氏の尼崎の蝶、松井俊公氏の宍粟郡の蝶、中谷貴寿氏の加古川の蝶、田中蕃氏の県下各地各種の記録などの報告も含め兵庫県各地の記録が発表され、兵庫県の蝶相の解明が大きく進展していった。

しかし、これら発表された記録はすべて断片的なものであったが、山本広一氏・吉阪道雄氏によって「兵庫生物」に兵庫県産蝶類目録として1958年から1965年にかけて四回にわたって県下に分布する蝶全種の概要が発表され、これによって兵庫県産蝶類の全

貌が明らかにされた。

1960年代に入るとさらに調査は進み、岩村巖氏・中谷貴寿の西播の蝶分布資料、猪股涼一氏・岡本清氏の多可・西脇地方の蝶類、中尾淳三氏・辻啓介氏の氷ノ山とその付近の蝶、堀田久氏の西宮の蝶、唐土洋一氏の相生市とその周辺の蝶、山本広一氏のギフチョウ・ウスバシロチョウ・ミヤマカラスアゲハ・ミカドアゲハなど種ごとにまとめた数多くの報告が加わり、さらに充実したものとなっていった。

1948年の虫同友会に次いで1967年には淡路昆虫研究会が発足しているが、1970年代に入るとそれに続けとばかり数多くの同好会が発足し、一番華やかな時代であったように思われる。

1972年12月には奥谷禎一氏を顧問に畑中 熙氏・高橋寿郎氏・辻 啓介氏・湯浅浩史氏・遊磨正秀氏・山本広一氏が世話人となって兵庫昆虫同好会が発足し、会誌「きべりはむし」を発行。1976年2月には佐々木薫氏・苦木隆行氏が中心になって播磨蝶友会が発足し、会誌「ひろおび」を発行。1976年5月には木村三郎氏・相阪耕作氏が世話役になって姫路昆虫同好会が発足、会誌「てんとうむし」と連絡誌「姫昆サロンニュース」を発行。1977年4月には木下賢司氏・遠藤知二氏・谷角素彦氏・高橋 匡氏によって但馬虫の会が発足し、会誌「IRATSUME」と連絡誌「混蟲すかん」を発行するなど活発に研究が行われ多くの成果が出ている。

1970年代のまとまった報告としては、1971年に山本広一氏が月刊むし3号に発表した「兵庫県の蝶相」がある。また1978年に発行された「MDKNEWS」には高田忠彦氏・井手敏晴氏による県下に分布するゼフィルス全種の報告があり目を引く。

1974年には「淡路島の蝶相」と題して登日邦明氏が名古屋昆虫同好会の会誌「佳香蝶」の26巻98号と26巻99号に発表され、堀田久氏の研究成果とともに淡路島の蝶を研究する上では欠かせないものとなっている。

1980年以降は前記の同好会の活発な活動によって分布についてはかなり詳しく調査が進み、特に但馬については木下賢司氏・谷角素彦氏、前平照雄氏・福井丈嗣氏・黒井和之氏・足立義弘氏・永幡善之氏・大東康人氏の活躍によって但馬に棲息する蝶の分布が「IRATSUME」10号・20号などに明らかにされている。最近では法西 浩氏、山岡万寿夫氏をはじめ多くの方々が「月刊むし」「昆虫と自然」「蝶研フィールド」などの誌上に研究成果の発表をされ、分布だけではなく、生態・形態など生活史全般にわたって県下の蝶の研究が進んでいる。

「兵庫県の蝶研究小史」とタイトルにはなっているが、筆者らの限られた情報を基にまとめたもので研究の成果を十分把握ができていない。特に1940年以前の状況は文献などを参考に憶測で書いているところもあり、その点は割り引いて御覧頂きたい。いずれにしても、兵庫県下の蝶を発刊にあたり不完全ではあるが、これも基礎資料として書き綴った次第である。

## 兵庫の自然環境

### ■ 位置と面積

兵庫県は平成11年3月までは21市70町で構成されていたが、合併が進み、平成17年4月1日時点では28市32町であり、平成18年4月1日現在時点は更に合併が進み、29市12町になった。(p 1～5 市町の合併による表示の変更参照)

人口はおよそ550万人でその6割弱の人々が神戸・阪神地域に住んでいる。位置的には東に京都・大阪府、西は鳥取・岡山県に接し、南は瀬戸内海を隔てて東は和歌山県、西は徳島・香川県に接し、県の南北を海に面する数少ない県である。

最北端は豊岡市竹野町猫崎の35° 40′ N、最南端は南あわじ市南淡町沼島34° 09′ N、最西端は佐用郡佐用町(旧上月町)大日山134° 15′ E、最東端は川西市東谷町黒川135° 28′ Eである。

東西168km、東西110kmに及び、日本の中央標準子午線(135° E)が、明石・西脇市をへて豊岡市但東町を通っている。面積は8,370km<sup>2</sup>で、日本全土の2.3%にあたる。

### ■ 地形

北部日本海側は、隆起準平原上に噴出した火山により複雑な地形が日本海まで続き、瀬戸内海沿岸部では中国縦貫道に沿って東西に走る山崎断層から南は低海拔の小山地が連なる。第三紀の丘陵と沖積平野が発達している。東部は古生層の丹波山地があり、南に花崗岩の急な六甲山地があり、播磨灘には淡路島と沈水地形の家島諸島がある。

### ■ おもな山地 (p 9 - 図参照)

#### 【北部日本海側】

但馬海岸(久斗山650m)

氷ノ山・鉢伏火山山地(須賀ノ山・氷ノ山1510m、扇ノ山1310m、牛ヶ峰山713m、鉢伏山1221m、瀨川山1039m)

蘇武・妙見山地(蘇武岳1074m、妙見山1139m、三川山888m)

来日・矢次山地(来日山567m、矢次山568m)

但東山地(法沢山644m、高龍寺ヶ岳697m、江笠山728m、郷路岳620m、東床尾山839m、西床尾山843m)

#### 【中央山地】

西部中央山地(三室山1358m、藤無山1139m、須留ヶ峰1054m、笠杉山1032m、後山1345m、日名倉山1047m、船越山727m、一山1064m、黒尾山1025m、段ヶ峰1103m、千町ヶ峰1141m、砥峰972m、暁晴山1077m、雪彦山915m)

東部中央山地(粟鹿山962m、青倉山811m、三国岳855m、千ヶ峰1005m、笠形山939m、龍ヶ岳817m、篠ヶ峰827m)

#### 【西播山地】

(船岩508m、白旗山440m、三濃山509m)

#### 【北摂・丹波】

丹波山地(妙高山565m、黒酢峰621m、雨石山611m、小金ヶ岳725m、三岳793m、西ヶ岳727m、白髪岳722m、松尾山687m、西光寺山713m)

北摂山地(愛宕山514m、三国ヶ岳648m、大野山754m、弥十郎ヶ嶽715m、三草山564m、妙見山660m)

#### 【六甲山地】

六甲山地(六甲山931m、石楠花山652m、摩耶山702m)

帝釈山地(ナダレ尾山527m、金剛童子山565m、稚子ヶ墓山596m、帝釈山586m、丹生山515m)

#### 【淡路島】

北淡山地(妙見山522m、常隆寺山515m、先山448m)

論鶴羽山地(柏原山569m、論鶴羽山608m)



## ■ 河川 (p 9 - 図参照)

日本海側に注ぐ最大の河川は円山川で、朝来市生野町円山付近を源流として、氷ノ山周辺を集水域とする大屋川、八木川が養父市で合流し、妙見山、蘇武ヶ岳東面を集水域とする稲葉川が豊岡市日高町で合流、下流部豊岡盆地では出石川と合流して津居山で日本海に入る。

竹野川は、三川山、大岡山などを水源にして豊岡市竹野町内を流下している。

矢田川は北但山地の中央部香美町を北流し、岸田川は北但山地の西部、新温泉町を北流する。

竹田川は丹波山地から北流し、福知山市で由良川に合流して舞鶴付近で若狭湾に流下する。

瀬戸内側に注ぐ河川は、東から順に述べると、猪名川は丹波山地、北摂山地の東半を流下して武庫平野に入り、中島川となって大阪湾に注ぐ。

武庫川は丹波山地南部に源をもち、三田盆地を経て、北摂山地と六甲山地の間を流下して大阪湾に注ぐ。

六甲南面の河川は六甲山系を源とし、市街地を流下し大阪湾に注ぐ短くて急勾配の河川で、六甲山から大量の砂を流下させるため天井川になっているものもある。東から芦屋川、石屋川、都賀川、西郷川、生田川、妙法寺川などがある。

明石川は神戸市北区から西区を経て明石市の市街地を流下する。

加古川は県下最大の河川で、粟鹿山付近を源に、篠山川を合流して西脇市付近で三国岳、千が峰、篠が峰を集水域とする杉原川と合流、下流で東条川、万願寺川、美囊川などを合流して加古川市、高砂市の沖積平野を通過して瀬戸内海に注ぐ。

市川は朝来市生野町北部の青倉山を源流に、直線的に南下し、姫路市東部を流下し、夢前川は雪彦山を水源として姫路市西部を流下する。

揖保川は上流の引原川が中央山地の瀬戸内側を集水域とし、宍粟市山崎町を流下し、下流部で栗栖川、河口部では林田川が合流して瀬戸内海に注ぐ。

千種川は県の西端部の佐用町を流下して赤穂市から瀬戸内海に流下する。

## ■ 地質

兵庫県の基盤岩類は、北から南に秋吉帯、三郡帯、舞鶴帯、超丹波帯、丹波帯、領家帯、中央構造線の外側の三波川帯と7つの地帯で構成されている。これらの構造帯が白亜紀以降の火山岩類や堆積岩類で覆われていたり、花崗岩などの深成岩類に貫入され、複雑な表層地質を構成している。

但馬地域は新第3紀の北丹層群を中心に西に照来層群、東は花崗岩類、酸性火山岩類、養父市周辺に古生代の蛇紋岩が分布している。

播磨地域は中生代酸性火山岩類に広くおおわれ、西に超丹波帯、東部中央に丹波帯が分布する。

丹波地域の広い区域は丹波帯におおわれ、泥質岩、砂岩、緑色岩、チャート、石灰岩やこれらの混在した地質である。

三田から神戸市北部にかけて古第三紀の神戸層群がおおい、六甲山から淡路島北部にかけて花崗岩類が分布する。瀬戸内に面しては大阪層群がおおっている。淡路島南部は和泉層群が中心で、淡路島と沼島の間を東西に中央構造線が走り、沼島は結晶片岩類である。



## ■ 気 象

兵庫県は面積的が広く、地域の違いによって気候要素も大きく異なっている。北部但馬地方は冬の降水量（積雪）が特に多く、日照時間は短い。

西播磨北部から南但馬にかけて、及び篠山盆地では冬期の気温が低く、年格差も大きい。霧の発生することも多い。

瀬戸内側では冬は温暖で夏は暑く、平均降水量は少ない。日照時間は長く、梅雨期や台風期に降水量のピークがみられる

	年平均気温	年降水量
神戸	15.5℃	1,309mm
姫路	14.5℃	1,303mm
豊岡	13.8℃	2,014mm
洲本	15.1℃	1,518mm

### 【気 温】

年平均気温の地域差は13.8～15.5℃と少ないが、1月の平均気温は淡路島の4～6℃に対し、内陸の山間部や但馬地方では2℃前後である。夏の気温の地域差は冬に比べると小さく、8月の月平均気温はほとんどの地域で26～27℃である。

### 【降 水 量】

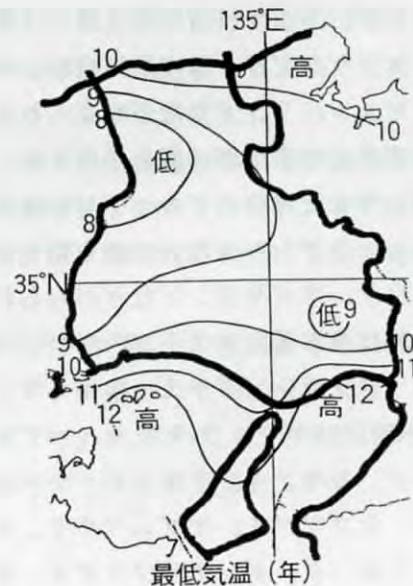
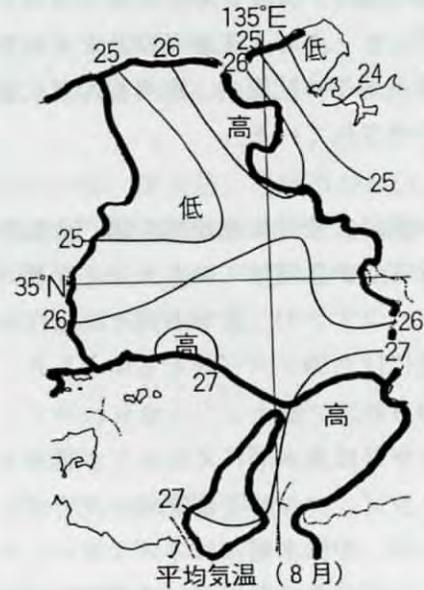
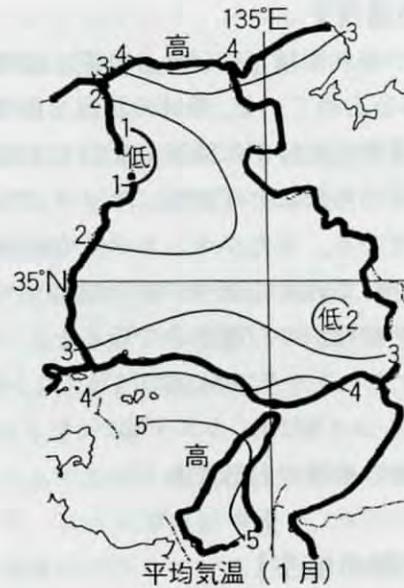
降水量は瀬戸内海沿岸部で1,200～1,300mmと少なく、日本海沿岸部では2,200～2,400mmもあり、その差は1,000mm以上におよぶ。降水量の月変化をみると、1月の降水量は瀬戸内側の50mm以下に対し、日本海側では200～300mmで、冬の降水量の差は著しい。これは日本海側の北西季節風の影響である。瀬戸内海側の降水量のピークは6月ごろにあり、梅雨による影響が大きい。また9月の降水量が高いのは台風の影響を受けているからである。

(162p 年平均降水量 参照)

### 【積 雪】

冬の季節風は日本海側では雪となり、瀬戸内海側では乾燥した風が強く吹く。県下の積雪量は但馬の山間部では2mを越えることもあるが、瀬戸内沿岸部や淡路島での積雪はまれである。

兵庫県の気温の分布



## ■ 植生

### 【森林の現況】

兵庫県の森林面積（565千ha）は県土面積（839千ha）の67%を占めている。森林の状況を面積割合で見ると針葉樹（58%）が広葉樹（39%）を上回っている。針葉樹の内訳はスギ20%、ヒノキ17%、マツ20%などである。またスギ、ヒノキなど植林による林（人工林）が占める面積の割合は42%である。

広葉樹を樹種別の材積割合で見ると、コナラ26%、アベマキ・クヌギ13%、クリ7%、カシ類6%、ケヤキ3%、シイ類2%、カエデ類2%などが主なものでその他の樹種が41%である。

### 【太平洋側の植生】

県南部地域はアカマツ林とコナラ林などの2次林とスギ、ヒノキの人工林がほとんどの面積を占め、高標高地や神社境内、海岸部などに孤立的に自然林が残されている。

標高の低い丘陵性山地地域や瀬戸内沿岸部、淡路島では古くから開けていて人為の影響が強く、アカマツ、コナラの二次林がほとんどである。川西市付近には台場クヌギ林を主体とした、里山環境が維持されている。

アカマツ林は高木層にアカマツが優占し、コナラ、リョウブ、マルバアオダモ、ソヨゴ、コシアブラなどが、中低木層にはネズミサシ、ヤマウルシ、ナツハゼ、ヤマツツジ、モチツツジ、コバノミツバツツジ、ネジキ、ガンピ、ウスノキ、ヒサカキ、イヌツゲなどが、草本層にはコシダ、ススキ、ワラビ、ツルリンドウなどが見られる。

加古川市周辺や東播磨の露岩地帯や崖、土壌の発達が悪いやせた尾根のアカマツ林は植物相が極端に少なく、トゲシバリなどの地衣類やホソパイブキシモチケ、ネズやガンピなどがみられる。

コナラ林は高木層にコナラ、アベマキが優占し、クリ、ヤマザクラ、ノグルミ、エゴノキ、リョウブ、中低木層にはヤマコウバシ、マルバアオダモ、ウリカエデ、カキノキ、アカシデ、ヤマハゼ、モチツツジ、ヤブツバキ、ヤブムラサキ、ムラサキシキブ、アオハダ、タンナサワフタギ、ネズミモ

チ、コバノガマズミ、アオキ、ウツギ、クロモジ、アセビなどが、草本層にはコガクウツギ、コウヤボウキ、ヤブコウジ、ショウジョウバカマ、ベニシダ、シシガシラ、ジャノヒゲなどがよく見られる森林である。

自然林は少ないが内陸部の社寺林などでコジイ、沿岸部山地でスダジイ、海岸部や岩石地ではウバメガシ、トベラが優占している場所がある。

コジイ林はコジイが優占し、亜高木層ではモチノキ、カクレミノ、ヒメユズリハ、イヌビワ、カナメモチなどが多く、リンボク、タラヨウ、ナナミノキなども混生する。林床にはヤブコウジなどの常緑植物が多い自然林に近い森林である。

淡路島、家島や西播磨の海岸線にはウバメガシークロマツの群落が見られる。また自然植生のウバメガシ林も残されている。特に淡路島の海岸部はウバメガシが優占する森林が広く点在する。家島群島にはウバメガシやビャクシンが優占する群落が成立している。

標高が400を越すやや奥地の森林はスギ、ヒノキなどの人工植生に代っているところが多いが、社寺林などにはウラジロガシ林、モミ林など県下の中間温帯の典型的な自然林と考えられている群落が孤立的に残されている。

ウラジロガシ林はウラジロガシ、ツクバネガシ等の高木が優占し、ケヤキ、アカシデなどの落葉樹も混生している。中低木層はサカキ、ヒイラギ、シロダモ、ヤブニッケイ、クロモジなどがみられる。

モミ林は高木層にツガ、モミなどが優占、中低木層にコシアブラ、タムシバ、アセビ、シキミ、イズセンリョウ、クロソヨゴ、バイカツツジ、ヤブコウジなどなどがみられる。

北西部の山地の尾根筋にはブナクラス域代償植生であるミズナラ林が、砥峰高原にはチマキザサ群落が分布している。

標高900mを超える氷ノ山山系や、三室山山頂付近はブナ、ミズナラを主体とした夏緑樹林地帯で、カエデ類のほかオオカメノキ、ミズメなどがよく

見られ、林床にはチシマザサが密生することが多く、ヒメモチ、ハイイヌツゲ、オオバクロモジなど日本海要素の植物を含んでいる。

### 【日本海側の植生】

日本海側の低地は古くから薪炭林として利用され、西部にコナラ林、東部にアカマツ林といった2次林とスギ、ヒノキの人工林がほとんどの面積を占めている。

朝来市、養父市などの南但馬ではシカの食害が激しく、ウリハダカエデ、オオバアサガラ、ミツマタなどのシカが好まない植物が優勢となり、ブナ科植物などの森林を構成すべき重要な樹木の幼木が全く見られない区域が広がりつつある。

アカマツ林は高木層にアカマツが優占し、他にコナラ、リョウブ、タカノツメなどが、中低木層にはネジキ、ホツツジ、コバノミツバツツジ、ヤマツツジ、ナツハゼなど、草本層にはアクシバ、イワナシ、ツクバネウツギなどが見られる。

コナラ林は高木層にコナラ、コハウチワカエデなどが優占し他にミズナラ、アカマツ、リョウブ、アズキナシなどが、中低木層にはミヤマガズミ、オオバクロモジ、ヤマツツジ、コバノミツバツツジ、ユキグニミツバツツジ、ウリハダカエデ、タムシバなどがみられる。

海岸部にはカシワ、ケヤキ、タブノキ、スダジイなどを優占種とする独特の林相をもった地域が点在する。

社寺林や一部の低山地にはスダジイやカシ類の自然林が残っている。中でも豊岡市絹巻神社のスダジイ林は原生林に近い貴重な極相林である。

河川下流部はヨシ群落、中流域はツルヨシ、ヤナギ類が優占、上流域にはミゾソバ、カサヨシ、チゴザサなどまた田君川にはバイカモ群生地があり、最上流部にはオオバミズホウズキ、リュウキンカ、オニシモツケ、サンカヨウ、ザゼンソウなどが分布している。円山川の河縁域にはエノキームクノキ群落が分布している。

溪畔台池などの湿潤池にはオニグルミ、サワグルミ、トチノキなどの優占した林が成立し、谷部溪流沿いにオニグルミ、イヌシデ、サワシバ、アカシデの林が分布している。

標高が高くなるとミズナラに優占された代償植生が成立し、さらに標高が上がるとブナやミズナラの自然林が分布している。

山地内の道路沿線など開発場所にはヌルデ、ネムノキ、カラスザンショウ、フサザクラ、ミズメなどのパイオニア植物が優占している。

古くからの放牧、採草によりカシワの疎林にチシマザサ、ススキ草原が発達し、ススキーホクチアザミ群落が分布しているが、近年は採草が行われなくなり、木本が侵入を始めている。スキー場に改変された地域では毎年火入れ、草刈りが行われ、草原は維持されている。

三川山の一部、来日岳、豊岡市から但東町にかけての尾根部、朝来町青倉神社、岩屋観音などにはウラジログシ、大屋町一宮神社ではシラカシの優占した自然林が分布する。

イヌブナ林は青倉山に小面積ではあるが見られる。チャボガヤ、ミズメ、ハイイヌガヤ、ミヤマカンスゲなど日本海要素が強い。

但馬地域のブナ林は氷ノ山から扇の山、三川山から蘇武岳、妙見山にかけての山頂部付近、海岸部付近では標高600m前後の九斗山に分布している。林床にはチシマザサが密生し、ハイイヌガヤ、オオバクロモジなどを含む日本海要素の植物相を呈し、ウスバサイシンやサンインカンアオイなども見られる。ブナ林は床尾山系にもわずかに見られる。

氷ノ山では県内唯一の亜高山帯の自然植生としてキャラボク群落がわずかに分布する。林床にはシラネワラビ、ユキザサ、ヒメモチ、ミヤマシキミ、チシマザサなどが生育している。